

なぜ猫ちゃんが地域で受け入れられないのでしょうか

猫の苦情実態

(令和6年度、京都府内 639 件)

市町村や保健所等には、猫による苦情が多く寄せられています。地域住民が困り果てて、悲痛な声もあります。

主な苦情内容

- 無責任なエサやりをしている
- 庭や公園にフンが放置され不衛生
- フン尿の悪臭で窓が開けられない
- 車を傷つけられる
- 困っているから捕獲してほしい
(保健所では捕獲しておりません)
- 猫ノミに刺されてかゆい



あなたが野良猫をかわいそうと思うのと同じように
野良猫によって迷惑を被り困っている人もいます。
地域の理解のないままのエサやりはトラブルを招きます。

地域猫とは

野良猫は、猫にとっても、人にとっても不幸な状態です。野良猫を減らすには、自ら飼うか、飼い主を探し、屋内飼育をしてあげることが原則です。しかし、どうしてもそれができないときは、地域猫活動があります。地域住民の同意が得られたルールに基づき、複数の地域住民たちの協力によって、「所有者のいない猫」を管理し、野良猫を減らしていく取組です。

地域猫活動を実施するには……

町内会や公園を管理する地元市町村への説明

地域住民への理解・同意

- 猫トイレの設置数は、頭数プラス1個。毎日の管理やフンの清掃体制などのルールを整える。
- トイレの管理なしでは地域猫の問題は解決しません。
- 置きエサなど、不適切なエサやりをしない。
- 避妊・去勢手術を実施し、一代限りを条件とする。
- 地域猫活動で生じた問題を解決する。
- 地域から苦情があれば、エサやり場の設置を含めて見直す。

猫を完全室内飼育できる飼い主を探す活動



- 活動実施には、地域でのコミュニケーションが大切です。
- 活動実施者は、活動により生じた問題への対応や責任をもつことが重要です。